

聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で（ヨシエル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇119：7、エペソ人6：5「真心から」、マタイ13：44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

イエス・キリストの幼少期～青少年期

→① 神のデザイン

ルカの福音書2：21-52

：21「八日が満ちて幼子に割礼を施す日となり、幼子はイエスという名で呼ばれ…」：

「イエス」：「ヤーウエは救い」の意

モーセの掟、一族郎党に割礼を義務づけ 創世記17：12

八日目

①ビタミンK（血液を凝固させる働き）の形成：生後5日から7日

プロトロンビン（血液凝固因子）：生後三日で30%、八日までに110%、以降、100%で安定

②血小板形成で、止血作用が最も効果的になるのは、生後八日目以降

③かさぶたの形成：八日目から九日目までが通常の110%、その後通常値に安定

割礼の是非

2009年3月、割礼がウイルス感染（HIVやHPV）のリスクを軽減するとの研究結果発表
（医学誌「ニューイングランド・ジャーナル・オブ・メディスン」に掲載）

真の割礼は「心の包皮を切り捨てる」割礼

神が意図されたことは「心の割礼」 申命記10：15-20

：22「…モーセの律法による彼らのきよめの期間が満ちたとき…」：

男子誕生から7+33=40日が「きよめの期間」 レビ記12：1-8

⇒キリストは「律法の下にある者を贖い出すため」、また、信じる者が「子としての身分
を受けようになるため」、ご自身を律法の下に置かれた ガラテヤ人4：5

：24「…山ばと…家ばとのひな二羽』と定められたところに従って犠牲をささげるため…」：

モーセの掟、二通りのいけにえを要求 レビ記12：8、5：7-11

1. 「全焼のいけにえ」：「子羊」、あるいは、「山鳩、あるいは、家鳩」

2. 「罪のためのいけにえ」：「山鳩、あるいは、家鳩」

⇒キリストご自身が「いけにえの小羊」

：25 シメオンによる祝福

メシヤの来臨を心待ちにしていた忠実なユダヤ人の残りの者

：29「…今こそあなたは…しもべを、みことばどおり、安らかに去らせてくださいます」：

聖霊の御告げ通り（26節）、主の「父の御許に安らかに召されよ」のお言葉に従います

：31-32「御救いはあなたが万民の前に備えられたもので、異邦人を照らす啓示の光…」：

メシヤは異邦人のためにも来られた！

：34「…この子は…多くの人が倒れ…立ち上がるため…反対を受けるしるしとして…」：

ユダヤ人、メシヤ来臨の多くのしるしを疑い、中傷、拒絶

：35「剣があなたの心さえも刺し貫くでしょう」（下線付加）：

マリヤだけの苦しみ、一特に十字架の出来事— に言及

「それは多くの人の心の思いが現れるためです」：

キリストに対してどのように解釈し、決意するか、人々の心の思いが反映される

聖書

: 36-38 女預言者アンナ

「イスラエルの残りの者」の一人、キリストを「メシヤ」として、人々に確証
神に献身した、まさに「ほんとうのやもめ」 テモテ第一5:5

: 39 「…主の律法による定めをすべて果たし…ガリラヤの自分たちの町ナザレに帰った」:

ナザレに戻るまでの出来事、-マギの訪問、エジプトへ逃亡、ヘロデの男児虐殺命令- は、
マタイが記録 マタイ2:1-23

イスラエル史の観点からの興味深い洞察

→ ① 神のデザイン

シメオン—「聞く、聞かれた」の意— と、アシェル族のアンナ—「幸せ者、幸せ」の意—

創世記29:33、30:13

シメオンのメッセージ: ルカ2:34-35

耳が閉ざされた「イスラエル」、メシヤを受け入れず、墮落、衰退することを預言
女預言者アンナ、—「恩寵」の意— のメッセージ: ルカ2:36-38

幼子を賜った神に感謝を表明、回りの人々に幼子による救いを預言

⇒シメオン、イスラエルの墮落を告げ、アンナ、イスラエルの復興を告げた

奇しくも、申命記32-33章の「モーセの歌と祝福」の最初32章(シメオン族)と
最後33:24-25(アシェル族)のメッセージを反映

: 41 「さて、イエスの両親は、過越の祭りには毎年エルサレムに行った」:

三大例祭 出エジプト記23:14-17

1. 種を入れないパンの祭り
2. ペンテコステの祭り
3. 仮庵の祭り

: 42 「イエスが十二歳になられたときも、両親は祭りの慣習に従って都へ上り」:

十三歳:正式に「掟の子」となり、シナゴグの会員になる年齢

: 46 「…真ん中にすわって、話を聞いたり質問したりしておられるのを…」(下線付加):

ラビたちの教授法:教師と学ぶ者が質疑を繰り返すのが慣習

: 49 「…わたしが必ず自分の父の家にいることを、ご存じなかったのですか」(下線付加):

ヘブル語聖書では「父としての神」は斬新、しかも、一度も「私の父」という表現はない
キリストがただ一回、これ以外の用語を用いられたのは十字架上での叫び マタイ27:46

「ご存じなかったのですか」:

→マルコ8:21「まだ、悟らないのですか」

キリストの諫言、両親が「キリストを捜さなければならない」と思ったことに向けられた

: 51 「…イエスは、いっしょに下って行かれ、ナザレに帰って、両親に仕えられた…」:

キリスト、謙遜に、天の父と地上の両親とともに仕えられた

キリスト、ヨセフ亡き後、長子として、生計を支えるため大工職に従事された

キリストの生涯のほとんど知られていない年月

詩篇69篇

神への永久の忠誠のゆえの苦しみがテーマの偉大なる「メシヤの詩篇」
 新約聖書に最も多く引用されている三大詩篇の一つ 22、69、110篇

詩篇69：1-19

キリストの地上での初期の年月

キリストの青少年期

ナザレ時代、一キリストの暗黒の日々を垣間見ることができる

「ゆりの花」：“シヨシャニウム”、メシヤとしてのキリストを描写、「ゆり」の詩篇

1-12節 絶望

：1「…水が、私ののどにまで、入ってきましたから」：

助けの叫びで始まるこの詩篇、自分（詠み手）を「溺れかかっている者」として描写

：4「ゆえなく私を憎む者は私の髪の毛よりも多く…」（下線付加）：

「わたし」、一キリストの敵は、理由なくキリストを憎んだ ヨハネ15：25

キリストはなぜ私たちのために苦しまれたのか

「値なしに義とされる」ということは、「理由なく義とされる」と同じ ローマ人3：24

⇒キリストの敵が理由なくキリストを憎んだのは、私たちが理由なく「義」とされるため

：5「神よ…私の愚かしさをご存知…私の数々の罪過は、あなたに隠されてはいません」：

十字架上でキリスト、私たちのために「罪」となってくださった コリント人第二5：21

ゲッセマネで主が神に祈られた「罪の杯」は、^{とが}咎ある私の杯であった マタイ26：39、：42

：6-7「…私は、あなたのためにそしりを負い、侮辱が私の顔をおおっていますから」：

キリストが数々の罪過を担ってくださった理由：

1. 私たちの救いのため

2. 私たちの罪の身代わりとして、神の御目的にご自身を服従させられた

：8「私は自分の兄弟からは、のけ者にされ、私は母の子らにはよそ者となりました」：

キリスト、父ヨセフの子ら、一ヤコブ、ユダ、ヨセ、シモンたちとはよそ者であった

：9「…あなたの家を思う熱心が私を食い尽くし…そしりが、私に降りかかった」：

用語「熱心」はギリシャ語では、「首を伸ばす」の意

賞を得ようと競走者らが首を突き出してゴール・インする様子からの隠喩

：10-11「私が、断食して、わが身を泣き悲しむと…私は彼らの物笑いの種となりました」：

信仰の行為、「敬虔なふり、芝居をしている」としか受け止められなかった

なぜやることなすことがすべて、侮辱、いじめの対象となったのか

「あれは嫡出子ではない、私生子！」といううわさが広まっていたに違いない

⇒当時のこのうわさを反映するかのよう、ユダヤ人たち、キリストに、

「私たちは不品行によって生まれた者ではありません。私たちにはひとりの父、神があります」（下線付加）と言いつ返し、自分たちの正統性を主張した ヨハネ8：41

聖書

- : 12 「門にすわる者たちは私のうわさ話をしています。私は酔いどれの歌…」（下線付加）：
 町の自堕落な者たちは、キリストとマリヤについて汚れたうわさを立て、
 町の門に座って裁きを行う **指導者たち、高級官僚や裁き司たちも**、例外ではなかった
 ⇨ 郷里ナザレでは人々の驚くべき不信仰のゆえ、キリスト、力あるわざ、
 「奇蹟、癒し」を行うことができなかった マルコ6：4、13：57

→ 2 神の背理

神の背理

キリストは、異邦人の町「ナザレ」、一修辭的に「輕蔑」の意を暗示— で、「私生児！」と呼ばれ、さげすまれ、少年、青年時代を送られた
 主は「罪人」である「私」のために、十字架上で「罪の報酬」、一死— を支払ってくださった
 ⇨ それは、この私自身が救われ、神の「嫡出子」となるためであった

→ 2 暗号ELS

キリストほどれっきとした系図が記録されている人はこの世にいない

神は、この世の知者をはずかしめる知恵で、キリストが神のご自身の真正な御子「ひとり子」であることを聖書の至る所で、預言、証しされた

1. モーセ五書ほか『聖書』に織り込まれている「暗号」
 創世記38章 —イスラエルの族長ユダとタマルに息子ペレツ、誕生—
 「ボアズ、ルツ、オベデ、エッサイ、ダビデ」の名（49文字の等間隔、年代順）
2. ルツ記4：18—22 —メシヤの系図の預言—
3. ナタンの血筋のメシヤの系図
4. 処女降誕の預言 イザヤ書7：14

13—21節 神に依存

: 13 「…この私は、あなたに祈ります…御救いのまことをもって、私に答えてください」：

キリストはいつも、何を祈っておられたのか

「救いの確かさ、救いの真実」を

: 14—15 今の絶望的な状態は、神のご介入が期待でき、神が対処してくださる一時的な状態

ヨナの祈りを反映 → マタイ12：39—40（ヨナのしるし）、ヨナ書2：2—6

: 16 4節との意識的な対照：敵から神に視線の移動

: 19 「あなたは…私の恥と…侮辱とをご存知です。私に敵対する者はみな…御前にいます」：

7節の恥と侮辱に再び言及、しかし、神はすべてをご存知

29—36節 主への献身

: 29—33 二通りに分類されるこの世の人たち コリント人第一1：18

1. 失われた者たち：贖われなかった罪人 → 「滅びに至る人々」

2. 救われた者たち：贖われた罪人 → 「救いを受ける私たち」

詠み手の神への絶対的な依存、主の画期的なご介入を信じる預言的洞察へ

「主は助けの必要な者に耳を傾けられる」

: 36 「主のしもべの子孫はその地を受け継ぎ、御名を愛する者たちはそこに住みつこう」：

「主を受け入れた者」は、だれでもみな、れっきとした神の家族に加えられる

—まとめ—

キリストが達成された神の背理 (逆説)

- 1. キリストが理由なく憎まれたのは、私たち「罪人」が理由なく義とされるため
- 2. 私たちが、私生児ではなく、神の嫡出子とされるため

→ 2 暗号ELS

『ヘブル語聖書』の暗号

創世記38章に等距離文字列 (ELS) で織り込まれている メシヤの系図

49文字の等間隔で年代順に「ボアズ、ルツ」から「ダビデ」まで五人の名、
—ボアズ、ルツ、オベデ、エッサイ、ダビデ— が、ヘブル語聖書に織り込まれている



‘בועז’ ボアズ

‘רות’ ルツ

‘עבד’ オベデ

‘ישעי’ エッサイ

‘דוד’ ダビデ

☒ <http://www.shrdocs.com/presentations/23106/index.html>